

## 第2回学校運営協議会(報告)

- (1) 学校長あいさつ
- (2) 前期学校の取組について

### ○前期学校評価の説明 【教頭】

学校経営計画(22項目)に示す前期の取組の評価と評価をもとに後期取組が進んでいる状況・活動の説明を行った。全項目に関して「現状に満足している」「現状に概ね満足している」の割合が概ね80%後半から100%の数値であり、概ね満足(達成)傾向にある。

重点に置いている項目や見直しや改善が必要な項目についての説明を中心に行った。

- ・防災、防犯体制については、危機管理マニュアルの活用、職員の動きと連携、また隣接高校や地域との連携。
- ・道徳の授業の充実。生徒たちの培った気持ちや考えが日々の生活の中で生きようにつなげていきたい。
- ・本に親しむ取組の充実。コネクトボックス(研究:WBC)の活用方法や今後の活動。
- ・健康でたくましい心身を育む活動の充実。運動量や活動量の確保。現在、生徒の保健室利用は減少傾向にある。また、心の面については、担当が個別に相談等に行っているケースが多く、学年内で共有できている。
- ・研修テーマ追究のための授業研究の充実。
- ・今後、キャリアパスポートの活用とともにキャリア教育の充実。
- ・生徒が主体的に生徒会活動等に取り組む自治的能力の高まり。校則改正に向けての取組や後期生徒会活動がスタートし期待感の高まり。
- ・職場環境と業務内容の見直し。会議の時間短縮や定時退勤日の設定等。職員研修として自立活動研修(レジリエンス)や不祥事根絶研修の実施。
- ・共生・共育及び地域資源を活用した授業の充実。広がりよりも「深まり」を充実させていきたい。
- ・特別支援教育のセンター的機能の推進。後期、小学校と作業学習のつながり、中学校と進路指導のつながり、高校と特別支援コーディネーターとの連携等が計画されている。

学年や学部、分掌課等チームとしてさらにより良い富士宮分校にしていきたい。



### ○生徒の学習(自治活動)の様子 【部主事】

「働く学び」 働く姿を先輩から学ぶ キャリア教育スクール(やりがい、なぜ働くのかなど)体験的な活動から働くイメージをもち、課題を克服していく。

「地域」 ネット講座 薬学講座 ヨガなど外部講師からの学びの充実

「自治的活動」 生徒会活動の充実。宮北高1年生への学校紹介では、「どうしたら伝わるのか?」など協議する場面。互いに知らない状況だった為、更に知る場、機会・発表する場が大切。日々の中で説明する機会。説明するための言葉、語彙。文章の構成は、国語での学びが生かされている。後期2年生がリーダーとしてスタート。「自分で考えてから自分の言葉で伝える」場面が増えている。

校則改正に関して、執行部中心的なところもあるが、生徒たちの本気が増してきている。

「コネクトボックス」 具体的に計画を立て進めている。

〈後期に向けて〉

☆「なぜ何のために」を大切に。☆強みを生かす、認める場。☆見通し。☆自己選択。をより後期の教育現場の中で深めていきたい。



〈取組について〉

委員:9月のPTAの会議の中で、宮北高の学校紹介があった。その際に、分校のCONNECTボックスを紹介した。「本を広める」という思いや「伝える」「考える」は続けていってほしい。分校の「挨拶」「CONNECTボックスの作成様子」「防災の個別の避難計画」等は自慢でもあり、見ていただきたい。

(3) 協議 【進行:会長:山元 薫氏】

協議① SNSの扱い方法等について【保護者とのつながり】

協議①について 学校側から概要説明。

委員:コクーについて 今回の事案(SNSトラブル)について保護者からのリアクションは？

学校:保護者から安全面について先に知らせてほしかった。

委員:夏休み中の部活動がなぜ休みになったのか？とは思った。自分の子どもがかかわらないので、詳しくは分からない。

会長:こういったケースについて、企業側のご意見を？

委員:特に問題はない、個人がトラブルに巻き込まれないように。

情報の共有は大事。生徒は未成年なので、保護者はしっかりと知っておく必要がある。情報についての内容を検討精査し、オフィシャルな情報を随時出していく。企業としても大事にしている。

委員:ルールを明確にし、情報を出していくことで、透明性になる。また、どこまでの内容を出すのか。

会社で利用することもあるが、社員として個人として指導。生徒がしているなら保護者がフォローしては？一定のルールが必要。危険性があることを伝えていく。

委員:孫が行っているが、エスカレートしてトラブルになっていく。言葉遣い。コロナでマスクを使用したことで、笑顔なのか？泣いているのか？表情が見えないため、加減がわからない。親は使っているが、どこまで抑えるのか？隠れて行い、トラブルへ。

委員:保護者も勉強していかなくては？

委員:危ない⇒セーブ⇒相談の流れは学校での学習の成果。危険と便利 手前でおさめたい。

委員:大学生も同じケースはある。見えない危機意識を知っている。そういった面での対応ができる。今後、SNSに關してもつきあっていくもの、使っていくもの。SNSのコミュニケーションの使い方、整理。教職員もバージョンアップ。

委員:ネットは異次元、三次元とのつながり。子どもたちにとっては主流。

校長:情報を共有することでの透明性。危険性をどのように伝えていくのか？反復、繰り返し伝えていくこと、専門機関に相談していくことも大切である。

委員の皆様から多くのご意見をいただきました。

保護者への情報共有も含め、現状を「おたより」等を通して伝えていきたい。また、こういったケースに対する学習(ネット講座、薬学講座)やスクールロイヤーを活用しての研修、警察との連携強化についても生徒、保護者へ情報を提供していく。

## 協議② 進路先への情報提供について【進路先とのつながり】

協議②について学校(進路担当)から概要説明。

職場実習や進路決定に向けて、どこまでの情報提供？進路先や実習先はどこまで求めているのか？卒業後を考えると強みだけではなく弱みも伝えておいたほうが良いのか？

会長:実習と採用に関して企業側の考えはどうでしょうか？

委員:健康状態。仕事面ではなく、個性や特性が。採用となると、3年間の状況(トラブル、気持ちの浮き沈み、どのように対応していたのか?)波がどうしてもあるので、沈んだ時に対応では遅い。事前を知っておきたい。

保護者がいる前での情報開示は難しいと思うが…。実習を経ているので大丈夫が前提。

学校と保護者の関係性がどうだったのか大事(学校—親—企業へと)。

委員:実習はやる気がある。「一番のピーク」だから、社員も期待しすぎないように伝える。トラブルがあったが、クリアできなかった。学校やチャレンジとの連携。特性に応じての仕事の切り出しは考えられる。企業によっては違うが。

委員:企業側への説明の中で、一般的な「知的障害の特性」(定義)こういうところがベースにあるということを伝えるのはどうか。初めての企業は分からないことが多い。

委員:実習については、気分も上がり、周りも盛り上がるため「ピーク?」と感じている。就労を長く続けるには……と考えている。採用時は、ピークの半分とみていくと良い。期待⇒下がる⇒周りとの調和がとれなくなってしまう。そのため、温かい目で見ると状況づくりをしている。

会長:職場開拓時などの資料として知的障害の強み等の情報提供はできているのか？

進路:いくつかあげてはいるが、もっともっと伝えることが必要と分かった。

学校:実習前の段階で個票といった資料提供をしているが活用できているだろうか？

委員:ほぼほぼ活かしてはいない。会社側の特性もあるので、それに見合った情報が欲しい。

委員:全部拝見し社員と共有した。社員と共有するためにも資料があることで助かる。実習経験や受け入れ体制が整っている会社とそうでない会社との差はあると思う。

委員:親は学校とどういう方向性、対応、信頼関係を築いてきたのか？そういった情報が欲しい。家での会話の中で学校や会社で起きたことをうまく伝えられているのだろうか？

委員:会社に預ける、世話してもらっているという意識はなくしてほしい。イーブン、戦力、だから雇用している。子どもの幸せ、ベストを考えていただきたい。

委員:PTA進路学習会で保護者にも伝えていきたい。

委員:キャリアパスポートの活用等、教員が描けているか？何が大事かを考えることが大切……

委員:防災関係、異常気象 8月末に訓練等は熱中症を心配しながらの実施で本当に必要？加減の問題。

### (4) 閉会のあいさつ

校長:協議でいただいた内容について参考にして進めていきたい。前期学校評価も概ね良い評価ということでありがとうございます。

後期も子どもたちの成長にむけて取り組んでいきます。



※表現方法や言葉・単語等で正確ではないところ、発言内容を一部解釈し変換した表現になっている部分もあります。ご理解いただきますようお願い申し上げます。